

113 カタハガイ

(イシガイ科)

兵庫県ランク:A

Obovalis omiensis

環境省ランク:VU

種の概要

愛知・岐阜・新潟県以西の本州、四国東部、九州北部に分布する。殻長60～100mmになり、後背縁が張り出す。殻表には漣状彫刻がある。殻質は大きさの割りには薄質で、殻頂部は金色や白色の内層を露出させる。水路や小河川など底床に生息する。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○		△	△	△	○		○

県内分布

宝塚市、三田市、加古川市、小野市、加東市、姫路市、たつの市、篠山市

県内における生息状況及びその他特記事項

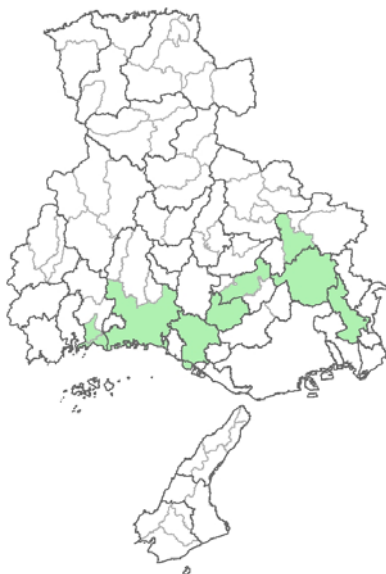
ランク変更なし。県内では瀬戸内海流入河川の本川や支流、ため池とこれから流出する水路に生息する。武庫川では2000年頃までは広域に多産したものの、現在は著しく減少している。また、生息環境が維持されていても、若齢個体の参入がない場所もあり、老成個体群という新規参入のない末期症状の個体群もある。本種の減少は、同時にイシガイ科二枚貝に産卵するタナゴ類の激減に繋がる深刻な問題である。

保護上の留意点

生息水路の付け替えや河川改修は目立った要因であるが、生息環境が維持されていながらも著しく減少している理由は定かでない。1つ考えられることには、県内全域での魚類の減少やオオクチバスなどの増加で、幼生のホスト魚が捕食され減少していることが大きなリスクとなっていると考えられる。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修